

福岡女子大学
同窓会

第85号



筑紫海会会報

事務局 福岡女子大学内 TEL (092)671-6360 FAX (092)692-9185



この度、図らずも筑紫海

会の会長という大きなお役
をお引き受けることにな
りました。

思い迷いのなか、時代や
時 同窓会の現状など、様々
な流れを受けとめつつ歩み
出したところでございます。
理事会に若い理事の方が増
え、その新しい
発想に次の
時代を見る思
いも致してお
ります。



感謝と希望、伝統から創造へ

第11代 筑紫海会会長

矢野 芙美子 (大10回)

意を抱き続けたいと深く思
わされました。

この度、学校法人筑紫海
学園閉鎖に伴う残余財産の
一部で二つの美しい作品を
大学にお贈りすることがで
きました。

彫刻家中村晋也氏のプロ
ンズ像「MISEREERE

退任挨拶

出会いに感謝して

第10代

筑紫海会会長

山本 津弥子 (大8回)

先輩の力で

後輩の実行力で

北九州支部の山根房子さ
ん(大4英)の紹介で「校
歌」をソプラノ歌手桑原英
子さんの澄み切った歌声で
CD化ができたことです。
式典の際、只あるから歌っ
ていた校歌が、倉野憲司先
生の作詞の一言一句が女子
大の存在意義や誇りを伝え
ているのを感じます。人
の感性に訴えるのは磨かれ
た感性で表現されるときだ
と思いました。

命よ、画家・壁画家田村
能里子氏の壁画「凜として」
がそれです。

この事を可能にした源は、
58年前「地域社会に貢献し
たい」の願いのもとに開設
されました香椎幼稚園にあ
ると言えます。在校生、同
窓会の皆様は、この作品を

ご覧になる度に、発せられ
る美と真実なるものに感動
されるはず。そこから
先達への感謝を思い起こさ
れるとともに、大学が推し
進めようとしている希望に
満ちた未来へエールを送る
力にもつながって頂きたいと
願います。
現在は絆をより深めつつ、

母校の姿に

大学関係者の新しい大学
を目指す情熱を感じ、同窓
会は何をしたらいいのだろ
う、これからの母校との関
わり方……

ただ、母校の変革の球が
ストライクであることを願っ
ている応援団席に「筑紫海
会」が座っていることをお
忘れなく！

山本津弥子さん(大8回)
は平成17年から3期6年筑紫
海会副会長、23年から2年同
会長として、併せて8年間
力されました。

平成25年度 総会報告

5月26日(日) ヒルトン

福岡シーホークで180名出席
のもと総会が開かれた。

開会の言葉、物故者への
黙祷に続き、山本会長より
6年ぶりの同窓会名簿発行
大学に絵画寄贈等の報告が
あった。

議事

(1) 学校法人筑紫海学園解散
に伴う筑紫海会会則改正と
業務受託

(2) 平成24年度事業報告

同窓生ツアー、かすみ祭
に参加、留学生のお正月体
験ホームステイの実施等ス
ライドで報告。

(3) 平成24年度会計決算報告
監査報告の後拍手で承認

(4) 役員改選
会長・理事選考委員会よ
り経過報告。

新会長、新理事を拍手で
承認の後、矢野新会長より、
新役員、新事務局員の紹介。

(5) 平成25年度事業計画案
国際交流事業の推進。同
窓会活動のサポーター募集
のアンケートへの協力依頼

波紋



▼NHKの9代目うたのお
姉さん(小鳩くるみの前、
1970〜72)のその後
は？そんな興味もあつた今
年の東京支部総会のアトラ
クションでした。▼その人、
山田昌子さん(ソプラノ)
はベージュのロングドレス
が華やぐお母さん。テノ
ール歌手の息子さんとお嫁さ
んはピアノリスト。家族で日
本と世界の愛唱歌を歌い継
ぎたいと、NPO「ボボロ」
を2001年に設立。会場
と一緒に歌い、鼻歌(笑顔)
のある毎日を、と活動され
ています。▼オペラ「椿姫」
の「乾杯」で心弾む「コンサー
トの始まり。『からたちの
花』、『蘇州夜曲』、『朧月夜』、
『赤とんぼ』と懐かしい曲
目。次に「チリビリン」、
『オソレミオ』の力強い
歌声に魅了されました。▼
フィナーレは、震災復興支
援の歌「花は咲く」を皆さ
んで。歌詞には無くしたも
のへの惜別、自分の生き方
への懸念(ワタシハ何ヲ残
シタダロウ)、そして、咲
く花の命に託した祈り。被
災された方々の復興を祈る
合唱でした。▼私は201
0年2月に脳梗塞を発症。
与えられた命を考えました。
翌年の大震災です。止まら
ない涙。停電の間で知っ
た月明かりの美しさ。これ
からどう生きたらいいのか？
▼くしくも3月11日は私の
誕生日です。

岡部 純子(大15英
東京支部

総会当番を終えて

当番委員長

肥川 絹代 (大23英)

会場のあちらこちらで再
会を喜ぶ歓声上がる。元
氣を確かめ合って交わす笑
顔。白髪がちらほらと顔を
出している友人、ちょっぴ
りふくよかになった友人。

しかし、それも束の間。あつ
という間に、うら若きころ
の友人の顔に。誰もがあの
頃に戻っていく。時間と空
間を超えた場が、5月26日、



長(の熱い思いが溢れていた。
同窓会役員の方々には、何
かと支えていただいた。更
に、何よりも実行委員の主
体的な準備は見事であつた。
感謝の言葉が見当たらない
ほどである。

180人の参加者を得た今回
の総会及び懇親会を支えた
のは、学長をはじめ、同窓
生の福岡女子大学への熱い
思いに他ならない。最後に、
同窓会の更なる発展を願っ
て筆をおきたい。

学校法人 筑紫海学園は

解散を結了しました

理事長 上村 元子（大6被）

学校法人筑紫海学園は本年度筑紫海会総会（平成25年5月26日）において、解散結了を報告いたしました。そしてこの日、学校法人42年間（香椎幼稚園、つくしみ山荘）を『学校法人筑紫海学園の軌跡』として編纂したものを発行いたしました。

当日、出席の皆様には配布し、学生を含む全員、福岡女子大学関係者には後日発送しました。

まず、前会報のあと、解散結了にいたる経過をお伝えします。

平成24年11月、幼稚園の廃園に伴う書類保管を同窓会に委託し書類保管料として二十万円の支出を決定しました。

平成25年3月、田村能里子氏壁画「凜として」が完成、搬入され、大学会館エントランスに設置いたしました。お披露目式は4月30日、学長を初め大学関係者と同窓会、法人の理事と評議員で行いました。田村氏からは祝電と花束が届きました。

平成25年4月以降、計画していた事業が終了し、いよいよ最終年度の収支決算の段階に入りました。ここで残余財産が明らかになります。下記の収支表で明らかのようにこの額は一億三



壁画「凜として」のお披露目式 2013.4.30

に真摯に対処してきました。ここに平成25年5月、学校法人筑紫海学園のすべての解散業務を結了したことを報告いたします。



『学校法人筑紫海学園の軌跡』

学校法人筑紫海学園 最終年度収支報告
(平成24年4月1日～25年4月30日)

(単位：円)

収入の部	項目	金額
	前期繰越金	12,484,187
	雑収入(預金利息等含む)	617,626
	特定預金等からの繰入(*1)	160,297,602
	前期未収入金の入金(*2)	7,581,800
支出の部	基本金取崩(*3)	22,197,000
	計	203,178,215
	項目	金額
	人件費	2,909,264
	一般管理費	44,515,379
	寄付金	32,949,080
	前期未払金・預り金の払出(*4)	19,804,492
	残余財産	103,000,000
	計	203,178,215

(*1) 固定資産から通常使用する現預金への変更
(*2) 前期期末の未収入金(退職社員基金)の入金
(*3) フロンス像の寄付により基本金からの構築物除去
(*4) 幼稚園教職員の退職金の支払支出・退職金支払いに伴う源泉徴収税の納付

開学記念式典
第2回ホームカミングデー

4月20日(土) 大学会館において、開学記念式典第2回ホームカミングデーが開催されました。出席者330名の謝状贈呈式がありました。梶山学長より、「我校は全国初の公立女子高等教育機関であり、女性リーダー育成」という建学の精神は、現在の女子大に確実に受け継がれ、なおかつ国際感覚を持ち、世界で活躍する女性リーダーの育成



うち、同窓生は110名でした。大学関係者、学生と同窓生がひとつの会場に集い、共に大学の歴史を振り返り、未来を展望できた貴重な機会でした。

式典終了後、一階食堂で大学が用意して下さったお弁当をいただきながらのながやかな懇談会。十分に同窓生の旧交を深めることができました。懇談会後、キャンパスツアーに参加したり、学生による海外語学文化研修の報告会や国文学科・英文学科の茶話会に出席し、工藤教授の講演を聴いたり、学生時代に戻ったような楽しい一日でした。

川原氏プロフィール
梶山小倉高校 九大医学部卒業
2002年外務省より医務官としてスーダンに赴任。医務官の立場では現地の人を診ることができないため外務省を辞めスーダンで医療活動を行う。2011年からは東日本復興支援活動もしている。

平成25年度入学式が4月4日大学会館大ホールで行われた。今回の入学式では郡司紀美子氏が招かれ、来賓・留学生を含む新入生・保護者を前に記念講話をされた。

郡司氏は今までの経験を踏まえて、

* 努力すれば何事も可能である。諦めてはいけない。
* 大学の学びの場でチャンスを活かすこと。「活かす」とは新しい種を得るまで教室を出ないということ。

* そして、ひとにぎりの人との出会いでその種は芽を吹くとし、ご自身の生涯続く同窓生との交流の豊かさを披露された。

国際人としてまず日本のことを深く学ぶことの大切さ、礼節を重んじ、感性を高め、凜として女性らしく、

今回の入学式では、福岡市在住の女専卒、大1回・大10回・大20回・大30回の卒業生に招待状が送られ、希望者が参加。初めての試みで参加者は少数でしたが、同窓生として紹介もありました。

来春は新校舎も一部完成しており、該当の女専卒・大2回・大11回・大21回・大31回の方々(福岡市在住)は母校に足を運ぶチャンスです。

「入学式」は学ぶ意義を新鮮に思い起こさせることでしょ。

平成26年度 福岡女子大学
開学記念式典&ホームカミングデーのご案内
平成26年4月20日(日)

【参加申し込み方法】
各支部長・クラス委員を通じてご案内致します。
参加希望の方は事前にお申し込み下さい。
(当日はお弁当の用意があります。)
マリ・クリスティーン氏講演予定 (現国連ハビタット親善大使)

福岡女子大学
伝統ある国文学会
ついに閉じる

「香椎潟」は、現在第59号を編集集中、第60号まで発行されること。

今後、国文学会会費の余剰金を使って、昭和30年の創刊号から第60号までの総目録を作成し、国文学会の会員全員に送付することが決定された。

発行は、来年夏以降の予定。

「香椎潟」も発行終了となる。

同窓会ブックカフェ
～かすみ祭(大学祭)に出店～

寄贈図書の展示や古書の提供、現在の同窓会・同窓生活動の展示・お知らせ等を行います。
懐かしい同窓生や在校生との語らいの場に！
美味しいお茶とともに、楽しみながら憩いのひと時を！
皆様のお出でをお待ちしています。

日時 11月2日(土) 13時～16時
11月3日(日) 10時～16時
会場 福岡女子大学 C棟1階

ご提供いただける図書、クラス会便り・写真・勉強会等のご案内等、募集いたします。また、準備や当日にお手伝いいただける方の募集も併せて行います。

問い合わせ 10月12日(土) までに、FAX・はがき・メール等で、事務局までご連絡ください。
折り返しご連絡を差し上げます。

あこのころに戻ってみませんか？

女子大留学生のお正月体験

学生と一緒に正月を過ごしませんか
ホストファミリー募集

女子大で学んでいる海外の学生を自宅に招いて、日本の家庭のお正月を体験してもらう企画です。

日時 12月31日～1月2日
対象 女子大の学部留学生
申込方法 10月末日までにFAX・メール・はがきで、下記～を記入して申し込んでください。

住所 氏名(卒業回・学部) TEL
家族構成(ペット) Eメールアドレス(あれば)
ご家庭のご都合等によって、多少日程が変更になっても構いません。

申込先 筑紫海会事務局
留学生のお正月体験係(最終頁参照)
説明会 申し込まれた方には、後日、説明会のご案内をいたします。

福岡女子大学からのお知らせ

創立百周年記念事業
『記念行事推進のための組織づくり』

福岡女子大学は、1923年(大正12年)に、前身の福岡県立女子専門学校が開設されてから、2023年(平成35年)をもちまして創立百周年を迎えます。

この度、創立百周年事業を組織的・計画的に推進するため、この9月に理事長をトップとして「百周年記念事業委員会」を立ち上げ、その下に専門部署として「記念事業推進専門委員会」及び「事業推進部会」(記念誌編集部会、事業企画・広報部会、募金企画部会)を設置し、これらには同窓生の方々にもご参加いただいております。

今後、百周年記念事業推進のための活動を本格化して参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(福岡女子大学経営企画室)



平成25年度 特別講演会のお知らせ

昨年度から、筑紫海会と大学の共同主催で特別講演会を実施しています。貴重なお話を聴いていただく機会です。ふるってご参加下さい。

日時 平成25年11月8日(金) 13時30分～15時15分予定
会場 レソラNTT夢天神ホール
(福岡市中央区天神2-5-55 レソラ天神5F)
演題 『ちゃんと、ごはん
～空飛ぶ料理研究家村上祥子の
たまねぎ水健康法～』
後援 西日本新聞社
講演会終了後、著作本の販売とサイン会を予定しています。参加者全員にプレゼントがあります。

必ず下記 **お問合せ先**へ事前のお申し込みをお願いします。(参加費無料)



平成25年度 福岡女子大学公開講座のご案内

■「世界を知ろうー学術研究におけるローカルとグローバルー」			
受講料：3,000円(全8回分)(高校生・本学学生無料) 13：30～15：00			
回	日程	テーマ	講師
4	10/12(土)	世界が注目のインド洋地域 - アジアの世紀への期待 -	バスマシリ・ジャヤセーナ (福岡女子大学准教授)
5	11/9(土)	東アジアの「開発」を振り返る：日本と東南アジアの軌跡から	鈴木 絢女 (福岡女子大学講師)
6	12/14(土)	アジアの経済成長をみる	張 艶 (福岡女子大学准教授)
7	1/11(土)	村上春樹の(非)現実的世界観	スコット・ピュー (福岡女子大学教授)
8	2/22(土)	韓国における儒教的家族の現代的変容 - グローバル化する「家族」 -	岡 克彦 (福岡女子大学教授)

■「わたしーなかもーみんなをつなぐもの ～社会性の心理学～」			
受講料：1,000円(全3回分)(高校生・本学学生無料) 13：30～15：00			
回	日程	テーマ	講師
1	10/5(土)	共感性とウェルビーイング	鈴木 有美 (福岡女子大学准教授)
2	10/19(土)	仲間体験と社会性の発達	久木山 健一 (九州産業大学准教授)
3	10/26(土)	規範意識の育成	黒川 雅幸 (福岡教育大学准教授)

お問合せ先 福岡女子大学 地域連携センター
女性生涯学習研究部門

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL/FAX：092-661-2728(直通)
TEL：092-661-2411 FAX：092-661-2420(代表)
E-mail：rclcf@fwu.ac.jp URL：http://www.fwu.ac.jp/collaboration/

■「続・中国現代文学と九州ー郭沫若の例を中心にー」

日時：10月24日(木) 13：00～14：30 受講料：無料
講師：武 継平(福岡女子大学教授)

■古文書で見る江戸時代の京都(3)
「体制に挑む町人ー百姓ー揆と打ちこわしー」

日時：12月13日(金) 14：40～16：10 受講料：無料
講師：スウェン・ホルスト(福岡女子大学准教授)

★福岡県立3大学連携県民公開講座のご案内
「食べる・噛む・生きる～食育で作る健康な心と体～」福岡会場

日時：11月29日(金) 13：00～15：00 受講料：無料 定員：140名
会場：JR博多シティ10階大会議室
講演者：福岡女子大学 濱田 俊教授(国際文理学部 食・健康学科)
九州歯科大学 千綿 かおる教授(歯学部 口腔保健学科)
福岡県立大学 小松 啓子教授(人間社会学部 人間形成学科)
※本講座は、10/16北九州地域、12/6筑豊地域、1/24筑後地域でも開催されます。
(一部内容が異なります)

※他にも、特別講演会が開催される予定です。
詳細はセンターまでお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

《受講方法》

■FAX、E-mailのいずれかに、①受講希望講座名、②氏名(ふりがな)、③住所、④電話番号、⑤年齢をご記入の上、お申し込みください。お電話でも受け付けています。受講票等の発送はいたしません。定員を設けている講座は先着順です。

■E-mailで公開講座や講演会の情報を随時発信しています。ご希望の方はお申し込みの際に、その旨ご記入ください。

■学内には駐車場がございません。恐れ入りますが、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

ご提供いただいた個人情報は、公開講座等の実施・運営、本センターからのご案内等に使用させていただき、他の目的には使用いたしません。

【2013支部総会報告】

各支部で、当番幹事の趣向を凝らした和やかな会が開催されました。

東 京(5.14) 明治記念館
近 畿(6.2) ホテルグランヴィア大阪
久留米・筑後(6.22) ハイネスホテル
北九州(6.23) 小倉シーセントホテル
長 崎(6.23) 長崎インターナショナルホテル
筑 豊(8.25) あをぎり



創立60周年を迎えた熊本支部

熊本支部 魚住 寿穂（大22被）

毎年5月末の筑紫海会総会が終わると、熊本でも支部長から役員集合の声がかかる。世代や職業も異なり、母校を同じくするというだけの繋がりであるが、パワフルで博識、飾らない人柄の先輩方にお会いするのはいつも楽しみである。

輩方の功績は非常に大きく、支部活動も会員の親睦にとどまらず、福岡女専・女子大で学んだ者としてあるべき姿を示し、時には就職のための斡旋なども行い、支部会員の社会参加を積極的に後押しされている。また、平成8年には筑紫海会創立70周年

熊本支部は昭和28年に発足。以来、年に一度の支部総会を持ち続け、現在に至っている。戦前戦後の時代の変革期を生き抜き、リーダーとしての強い信念を持つて支部を牽引してこられた先

も記念文集が発行されている。支部会員の多彩な寄稿文だけでなく、支部の歩みや会員名簿も備えており、今となつては貴重な資料である。

先輩諸姉の誇り高く、遅

しい生き方にいつも触発されてきたものの、多くの方が高齢となられ、現在の支部活動は、参加者の減少が続く、危機感を覚えている。会員の心の拠りどころとな



るよう、魅力的な同窓会活動を目指し、工夫を重ねている。支部総会では、本部より来賓を迎え、大学の現状に心を寄せ、卓話（三二

講話）で研修を深める。その後、会食をしながら各自の近況を報告するという形が基本である。卓話は、一昨年は、中国の民族問題について専門家から話を聞くなど、タイムリーな話題を心がけている。

なく案内してもらった。最新設備、全面改築の校内にも昔の面影を見つけ出し、懐かしさで胸がいっぱいになった。また、展示や催し、学生の姿に接し、もう一度学びたいと学習意欲が湧いたことも個人的には大きな収穫であった。

また時には小旅行や果物狩り、料理講習会など体験的な活動を楽しむこともある。昨年は大学の「かすみ祭」に合わせて新生福岡女子大学を訪問した。時間的・体力的にも負担の少ないマイクロバスを準備し、車内では近況報告をして、和やかで楽しい時間を過ごした。大学到着後も筑紫海会本部や大学の温かいもてなしをうけ、校内や学生寮をくま

今年は11月16日（土）に支部総会を予定している。長年の社会貢献活動で今春叙勲を受けられた立石邦子熊本支部長をお祝いするという嬉しい会でもある。多くの会員に参加してもらい心に残る楽しい会となるよう幹事一同、計画中である。

11月16日、会員の皆様の参加をお待ちします。

酷暑の8月18日(日)、「博多大福」で、夏恒例の「宮坂ゼミ同窓会」が行われた。宮坂覺先生は、昨年横浜のフェリス学院大学の学

長を任期満了で退任された。来年古稀を迎えられるとは到底思えない程、若々しく元気いっぱいのご様子だった。今年は、中国滞在で得たもの」というテーマで、中国・浙江工商大学で講義された折のスライドを見ながら、中国人生の研究熱心な様子や、「芥川紀行」で上海・西湖などを巡り「好奇心」の大切さを痛感したことなど、昔と全くお変わりのない口調で滔々と

語られた。
毎年作成している『五行通信』という小冊子は、先生や同窓生の近況のみならず、女子大改革の様子を伝

え、総会への出席をお願いする場ともなっている。

今年の参加者19名は先生の近況報告を目にし、まさに先生の私生活への「好奇心」でいっぱいとなった。

先生は昨年新しい伴侶を迎えられたとのこと。先生の元気の源はこれだったのかと、皆合点した。

いつまでもお幸せに！

会員の交流を図って
北九州再発見バスツアー

北九州支部長 住吉 育代（大20食）

昭和8年に「北つくし
み会」と称し、門司、小倉、
八幡、戸畑、若松の各地区
で各々の活動を行っていた
が、大学改革の際の平成23
年度には、大学から副学長



ました。先生は留学生（ベトナム国家大学ハノイ校フエさん、日本語が大変お上手です）も連れてこられ、大学の国際化が進んでいる実態をまざまざと実感することができました。筑紫海会本部からは副会長の江島玲子さんにご出席いただきました。総会の幹事を平成20年度から当番制にしたことで、当番期の結束が強くなったり、今まで総会に出席していなかった人が参加したりとよい傾向が見られました。

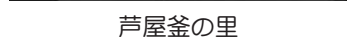
ンソン歌手TAKAKOさん
を招いて開催。85名参加
して大盛況。

第2回目は平成24年10月
に「北九州再発見バスツアー」
と題し、「TOTTO小倉工場」
「無法松酒造」見学。
本部や下関の会員も参加し
ていただき、参加者は32名
でした。

第3回目は今年7月26日
に「北九州再発見バスツアー」
と題し、「安川電機(株)黒崎工場」見学。精巧
な動きをするロボットに感

嘆ー（ロボットが見たいという小学生4名も参加）
「マリンテラスあしや」で、おいしい昼食を摂った後、「芦屋釜の里」見学、おいしいお菓子と抹茶をいただき、魚や野菜のお買物をして帰途につきました。本部から5名参加していただき、参加者は36名でした。これからも会員に喜んでもらえるようなイベントを企画し、楽しい同窓会を作っていきたいと思っております。

宮坂覺先生からのメッセージ
——「ようきんしゃったね FUKUOKA」



宮坂覺先生からのメッセージ

——「ようきんしゃったね FUKUOKA」——



「中国芥川紀行」

女らに育てられたように感じている。毎年、元気を貰う。人生の出会いの豊饒さをしみじみと思う（彼女たちにとってもそうであってほしいと期待するが...）。

来年は、古稀である。フェリス女学院を、今年3月に大学院客員教授を最後に引いた。今は中国で大学院招聘客員教授として教鞭をとっている。この9月から1か月(今回は4か月余)の予定で集中講義に出かける。

ウェルカムボードに胸を騒がせながら、今年も福岡空港に降りたった。宮坂ゼミ同窓会に出席のためである。女子大を離れて33年、毎夏の福岡詣である（2回ほど欠席）。女子大は、私の初めての職場で



宮坂ゼミ同窓会だより

飯屋 晶子（大24国）

酷暑の8月18日（日）、
「博多大福」で、夏恒例の
宮坂ゼミ同窓会が行われた。
宮坂覺先生は、昨年横浜
のフェリス女学院大学の学
長を任期満了で退任された。
来年古稀を迎えられるとは
到底思えない程、若々しく
元気いっぱいのご様子だっ
た。今年は「中国滞在で得
たもの」というテーマで、
中国・浙江工商大学で講義
された折のスライドを見な



授賞式当日同窓生と

3月24日、第43回福岡市文学賞贈呈式が天神の市赤煉瓦文化館であった。
この賞は昭和45年度に創設された伝統ある賞であるが、平成以降では
吉岡紋さん(大2回)
第21回 小説部門
松本文世さん(専20文)
第24回 小説部門

2012年度
福岡市文学賞(短歌部門)受賞

池野 京子さん(大1生)

懸命に生き来て古稀を迎へしゆゑ
言ひたいことは言はせて貰ふ

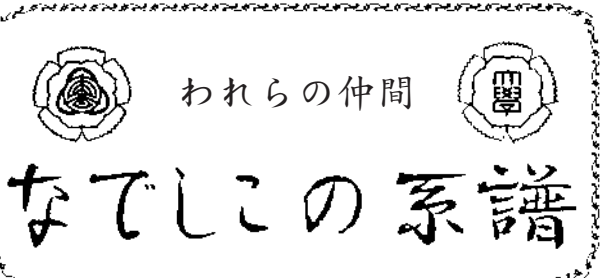
上野眞子さん(大3回)
第33回 詩部門
田島安江さん(大15被)
第37回 詩部門
池野さんの受賞選考理由として「80代の女性という境遇には珍しく、会社経営や様々な社会貢献活動を通して培われた鋭い観察眼が、作品に躍動感を与えている。」

式当日池野さんの講話
「結婚後、子育て、仕事と当然のこととして受け入れていた多忙な日常のなかで、唯一自身で選択し勉強してきたものが短歌であった。4人息子の末子が小学校入学の頃から始めて38年の成果、それが今回の受賞。二つの歌集は、調停委員

と評されている。池野さんは平成元年〜4年まで筑紫海会副会長を務められた。
や保護司等の経験も含め自身の生活史であり生きた証しとなっている。
日常生活のささやかなつづきやき・喜び・怒り・悲しみなど、また政治や社会に対する憤慨などを短歌に書き留め続けた今、詠うことで、どんなに慰められ、励まされているだろうか
残照の海にひてたくましく生きむと思ひし吾若かりき
はきだめの鶴たれと師は諭されき戦後貧しき仮校舎にて

現在の心境として
残生の主張のごとく
ビルの間にまなく沈まむ日は輝きぬ
昨年のかすみ祭では「会員の出版物を読もう」をテーマに、今まで同窓生から寄贈された本を展示したが、並べられた本の姿は壮観であった。今回受賞の池野さんの歌集「女ら集ふ」「清水湧き継ぐ」の2冊も含まれている。今後、新装なる大学の図書館にはぜひ同窓生寄贈本のコーナーをという話も上がっている。

5人の会長の下で事務局19年！
岩崎 和美(大21回)
▼平成6年5月、初めての総会会場の受付近くで声をかけられ「貴方何年生まれ？」
「あら、私が卒業した次の年なのね！」と驚きの声。
後に東京支部長の川口小夜子様(専25文・故人)と知り、彼女のモットーであった「同窓会は心のオアシス」が、その後の私のキーワードとなりました。
▼平成8年11月に発行された創立70年記念式典、翌9年記念誌発行。70年記念事業は、式典祝賀会・記念誌・会員の生き方考え方調査の3部門に分かれ活発な活動。80余名の先輩方のパワフルでエネルギーを注ぎ、団結力として包容力には圧倒されました。
▼事務局にとって、名簿発行は大仕事。初めて関わった平成8年版名簿「完璧な名簿を作るぞ」と大それた目標。でも初歩的なミス。岡崎元会長の励ましの木村屋のアンパンを涙目でおぼり、次こそはと誓ったことでした。平成12年版名簿「名簿管理を同窓会で行うため」村石敦栄さん(大13理・故人)を中心に4名で同窓生全員のデータを入力し、時間と戦いながら名簿形式にまとめ索引を作り、完成した時には達成感と満足感でいっぱい。万歳三唱！平成17年版名簿「市町村合併の年でこれ又各役所への問い合わせ等で名簿委員さんもてんでご舞い。本年度は、後輩の稲田さんの陣頭指揮の下、無事A4版を発



先生は、いつも女専で受けた教育を「自由で一人一人の学生を大切に」する素晴らしい校風だった」と話されていた。学問を裏付けとした研究と美的価値の発掘につとめ、生涯をかけて先生は書について様々な話を下さいましたが、繰り返し述べられたことは「自分を大事にする」ということでした。自分の中に持っている良い点に気づき、それを更に磨いていくことが大切であり、他方、このことがいかに大変で難しい

書と共に一世紀を生きて

—北畑 美子さん(専6文)—

雅号 かんらん 観瀾



母校へ寄贈された「得」

昭和44年、外務省の訪欧書道文化使節団員としての欧州歴訪を経て、活動の場がさらに広がりました。四度に亘る訪中で、王羲之と並び称される書の大家鄭道昭の碑文を始め、多くの石碑や法帖を、自身の目で確かめ、又、大英博物館所蔵の木簡の調査、研究に

著書及び関連本紹介
・阿茶さんが通る —戦争と書— (角川書店)
・「寸松庵色紙の筆者」 (角川書店)
・「天衣無縫」 白寿記念作品集 (中央印刷)
・「夢百年」夢に遊ぶ書家北畑観瀾 (天来書院)

さる7月22日、昨年、百才で亡くなられた北畑観瀾氏の書「得」の贈呈式が母校でありました。観瀾氏は、幼少より書に親しんでいましたが、卒業の翌年、時の書道の大家、比田井天来氏に出会ったことが、生涯書の道を歩むきっかけとなりました。氏亡き後は、同じ門下の手島右卿氏の下で、書家として大きく飛躍し、跡を継いで、40年程、歴代総理を含む超党派国会議員に書法指導を続けると共に、彫雲社、抱雲美術社という二つの会を主宰されました。昭和44年、外務省の訪欧書道文化使節団員としての欧州歴訪を経て、活動の場がさらに広がりました。四度に亘る訪中で、王羲之と並び称される書の大家鄭道昭の碑文を始め、多くの石碑や法帖を、自身の目で確かめ、又、大英博物館所蔵の木簡の調査、研究に

北畑観瀾先生のこと
平川静子(大15回)
今年6月に東京で遺作展が開かれたのを機に、先生の長年のご友人であられた小田達治氏(筆名 畑村達)のご依頼により大学に寄贈の希望をお伝えするに当たり、同窓会筑紫海会の本部並びに東京支部の役員の皆様には大変なご尽力を賜りました。心よりお礼申し上げます。

先生は書について様々な話を下さいましたが、繰り返し述べられたことは「自分を大事にする」ということでした。自分の中に持っている良い点に気づき、それを更に磨いていくことが大切であり、他方、このことがいかに大変で難しい



遺作展にて 右から2人目が平川さん

か、しかしこれが本当によくわかったと他人も大事にできるようになり、人類への愛にもつながる、芸術には人類への愛が込められていなければならないということでした。臨書では一点一画をゆるがせにしない厳しい指導でしたが、作品を書く時は「夢わくわく」「遊べ遊べ」の精神で臨み、日頃から精神的な教養を高めることを教えられました。

私は同窓会のご縁で、真の師に出会えたことを非常にありがたく思い、心から感謝しています。

▼事務局に入りました。今度事務局に入りました鹿毛名穂子(大35回)です。主に年次会費の入力と名簿管理を担当。電話対応等、通常事務局における一人様状態の為、毎日ドキドキです。会員の皆様と同窓会を結ぶ事務局になるよう頑張ります。



左から 岩崎さん 鹿毛さん 稲田さん

バトンタッチ